

『強毒性「鳥インフルエンザ」の脅威』

季節性インフルエンザの致死率0.1%未満に対して、約40%の致死率

鳥インフルエンザとは、トリに対する感染性を示すA型インフルエンザウイルスのヒトへの感染症です。日本での発症は未確認ですが、WHOによる2017年の報告では、世界各国でH5N1型の発症が確認（感染者数860名、死亡者数454名）、中国等ではH7N9型の発症が確認（感染者数1557名、死亡者数605名）されています。

従来、鳥インフルエンザウイルスは種の壁によりヒトには感染しないと考えられていましたが、感染した家禽（かきん：飼育する鳥の総称）やその排泄物、死体、臓器などへの濃厚な接触によるヒトへの感染等が確認されています。パンデミック（感染症の全国的・世界的な大流行）の発生に備え、日本でも一定量のプレパンデミックワクチン^(※)の備蓄が行われて

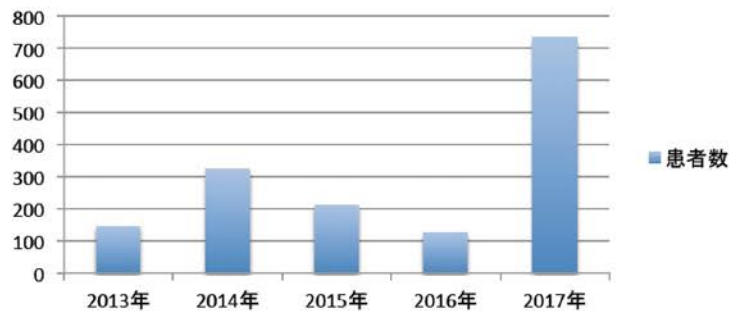
いますが、インフルエンザウイルスは元来遺伝子構造が変異しやすい特性をもつため、その有効性は限定的なものかもしれません。

症状は、初期は高熱と咳が出現、多くの患者は重症肺炎、重度の呼吸障害である急性呼吸促進症候群（ARDS）、敗血症、多臓器不全を合併、死に至ります（一部軽症例や無症候の小児例の報告もあり）。妊婦や乳幼児、高齢者でも重症化しやすく、特に5歳以下の乳幼児は「インフルエンザ脳症」にも注意が必要です。この場合、インフルエンザの症状に加えて、意識障害、意味不明の言動、持続性のけいれん、といった症状が現れるとされています。このような症状が見られた際には、速やかに医療機関を受診してください。

(※) 過去にヒトに感染したケースのH5N1ウイルスで暫定的に作ったワクチン



鳥インフルエンザA(H7N9)発生年別患者数(2013年4月以降)



※出典：WHOの資料（2017年11月中公表分まで）

文 宮本 貴司 text by Takashi Miyamoto

Profile

株式会社デルフィーノケア 代表取締役

1972年生まれ。日大文学部卒業。事業会社でITサービス、地域コミュニティーサイトなど新規事業上げを経験後、2015年12月に代表取締役に就任。「感染症ゼロを目指す」のコンセプトのもと、警察、病院、薬局、学校、オフィス等に「まるごと抗菌」を提供しています。